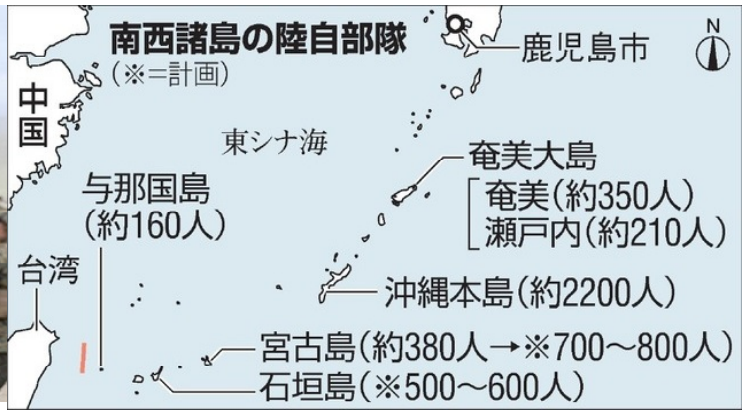


オスプレイ暫定配備反対！
陸自大演習への出動を許すな！

■「台湾有事」ー 戦争の危機が迫っている！

讀賣新聞　2020年(令和2年)10月30日金曜日

南西諸島 14万人演習

安保60年

第4部 同盟のこれから 1

陸自「台湾有事」波及

米中の軍事バランスの変化

菅政権は４月の日米首脳会談で、「台湾有事」を想定した日米安保同盟の強化と「日本の防衛力強化」を明言しました。これは米軍と共同して台湾海峡に軍事介入することも辞さない公言したのです。

こうした中で５月11～17日、九州の霧島演習場などで日米仏共同訓練が行われました。離島への着上陸と市街地戦闘などを想定したものです。

■9～11月、過去最大規模の 軍事演習計画

陸上自衛隊は今年９月から１１月にかけて、島しょ部での有事などを想定した過去最大規模の演習計画を発表しました。陸自全隊員の約１４万人が参加する軍事演習は２８年ぶりだそうです。陸自木更津駐屯部隊、オスプレイの出動も不可避です。

■「中国と戦争」ー絶対反対の声を

政府や自衛隊は、「南西諸島防衛のために陸自オスプレイ」と言うが、水陸機動団という軍隊を輸送するということは中国と戦争すると言うことです。絶対に反対しなければなりません。

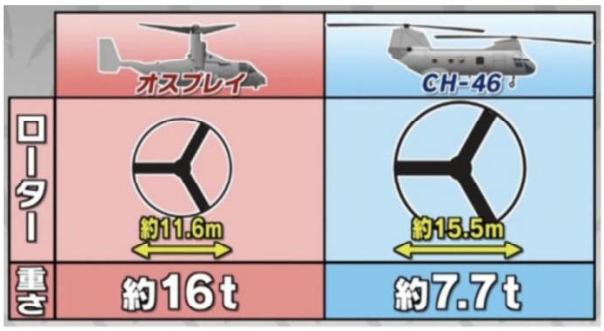
改憲・戦争阻止!大行進千葉　千葉市中央区要町２・８　043(202)7820

空飛ぶ欠陥機 オスプレイ

欠陥その1　「すぐ壊れますよ」

機体重量に比してローターが小さすぎる。従って回転数を増やさざるを得ない。常にエンジンに過剰な負荷を掛け続けて運用されるため、エンジントラブルが発生しやすい。

防衛省は米国から1機100億円のオスプレイを17機の他にエンジン40基を購入した。「すぐ壊れますよ」ということ。購入費は3680億円で、2015年度の社会保障費削減分に匹敵する。



欠陥その2　「オートローテーション機能はない」

エンジントラブルは必ず起きる。ＣＨ46はオートローテーションで安全に着陸できる。しかしオスプレイは重量が大きくローターが小さく、製造元のベル・ボーイング社のガイドブックには「オートローテーション機能はない」と記載してある。なのに防衛省は木更津での説明会の資料には、オートローテーション機能はあるとウソを言う。片方のエンジンで回せるから大丈夫だと。

現行機種の飛行高度330㍍の最小到達可能距離。MV22については不明

▽災害救援　「使えない」

2016年熊本大地震で派遣された海兵隊オスプレイは、2機で段ボール200個のみ！飛行距離も20キロ。この程度の量の救援物資しか運べなかった。

2015年のネパール地震の救援に普天間基地から4機の海兵隊オスプレイが向かったが住宅を破壊し、地元紙で「使えない」と報道された。

▽急患輸送　あり得ない

オスプレイは機体を軽くするために、内部は機材やダクトはむきだし。ある程度の高度になると気圧と気温が下がり乗員は酸素マスクと防寒着を着用する。これで被災者や急患を運べるのか？　そしてオスプレイは風に弱く、強風では飛べない。

▽ウソで塗り固めた欠陥機。

オスプレイは垂直離着陸ができるとあるが、なぜ1500mの滑走路が必要なのか。重装備で兵士24人乗ったら絶対に垂直離着陸できないからだ。仕様書にも「乗員は６～７割に」とある。